

山 岳 遭 難 発 生 状 況

(令和7年1月1日～令和7年11月24日)  
地域部 山岳安全対策課

1 山岳遭難発生状況

区 分	発生件数	死 者	行方不明	負傷者	無事救出	遭難者計
令 和 7 年	352	48	5	170	163	386
令 和 6 年	312	48	3	140	148	339
前 年 同 期 比	40	0	2	30	15	47

2 山域別発生状況

区 分		件 数	件数比率	死 者	行方不明	負 傷 者	無事救出	遭難者計
北 ア	槍穂高	68	19.3%	10	0	34	30	74
	後立山	87	24.7%	8	1	38	56	103
	その他	56	15.9%	1	0	36	25	62
計		211	59.9%	19	1	108	111	239
中央アルプス		24	6.8%	6	1	10	9	26
南アルプス		11	3.1%	0	2	8	1	11
八ヶ岳連峰		38	10.8%	5	0	21	13	39
その他の山岳		68	19.3%	18	1	23	29	71
計		352		48	5	170	163	386

3 態様別発生状況

区 分	件 数	件数比率	死 者	行方不明	負 傷 者	無事救出	遭難者計
転・滑落	94	26.7%	28	0	68	0	96
転 倒	89	25.3%	1	0	88	0	89
病 気	28	8.0%	8	0	0	20	28
道 迷 い	33	9.4%	0	0	0	50	50
落 石	7	2.0%	0	0	7	0	7
雪 崩	2	0.6%	1	0	1	1	3
落 雷	0	0.0%	0	0	0	0	0
疲労凍死傷	57	16.2%	2	0	0	59	61
不明・他	42	11.9%	8	5	6	33	52
計	352		48	5	170	163	386

4 男女別・年齢別比率

区 分	男 性					(人) 比率	女 性					(人) 比率	男女計	
	死者	不明	負傷	無事	計		死者	不明	負傷	無事	計		人数	比率
1 9 歳以下	0	0	0	7	7	46 17.2%	0	0	1	0	1	18 15.1%	8	64 16.6%
2 0 代	1	0	4	18	23		0	0	1	5	6		29	
3 0 代	4	1	4	7	16		0	0	3	8	11		27	
4 0 代	5	1	13	14	33	86 32.2%	1	0	16	3	20	47 39.5%	53	133 34.5%
5 0 代	7	0	22	24	53	135	1	0	20	6	27	54	98	189
6 0 代	9	2	31	26	68	50.6%	0	0	22	8	30	45.4%	98	189
7 0 以上	20	1	18	28	67		0	0	15	9	24		91	49.0%
計	46	5	92	124	267		2	0	78	39	119		386	
比 率	69.2%						30.8%							

(※ 比率の計は、小数点の調整上、一致しない場合あり。)

先週の発生（11/17～11/24）

日付	場所	性別	年齢	死傷別	態様	概要
11月24日	ハケ岳連峰 天狗岳	女	56	負傷	転倒	2人パーティで唐沢鉦泉登山口へ下山中、転倒、負傷
11月24日	ハケ岳連峰 硫黄岳	女	74	負傷	転倒	8人パーティで硫黄岳から桜平登山口へ下山中、転倒、負傷

山岳安全対策課からのアドバイス

先週県内では、**2件**の山岳遭難が発生しました。

2件ともに**ハケ岳連峰**で発生し、ともに**下山中に転倒**して負傷しています。

山岳遭難は、『**特に下山時**』、長時間の行動による疲労の蓄積や集中力の低下により、普段では難なく超えられる段差につまづいたり、スリップした際、踏ん張れずに転倒や滑落により遭難する事例が多く発生しています。登頂後に下山を急ぐ気持ちや電車やバスの時間など、時間にゆとりがない、気持ちにゆとりがないことも原因の一つです。

このように、山岳遭難は下山時に多く発生していることを認識していただき、登山は登頂目的を達成しても、無事に下山して帰宅するまでは気持ちは切らさず、集中力を維持して行動してください。

**【長野県で登山を計画している方へ!】**

長野県の各山域は、本格的な冬山シーズンに移行し、標高の高い山域では積雪があります。冬山登山装備は『**MUST（マスト）装備**』です。

アイゼン、ピッケル、ビーコンのほか、服装や靴、手袋などは、冬山に対応したものを携行してください。

冬山は、装備品一つで生死を分ける場合がありますので、準備段階から慎重に!